

## おやすみなさいフランス

ラッセル・ホーバン 文  
ガス・ウイリアムズ 絵  
まつおかきょうこ 訳  
福音館書店 1966年 1000円



夜7時。ベッドに入ったけれど、まだちっとも眠くないくまのフランスは、部屋の隅にとらがるとか、天井の割れ目から何かが出てくる、といっちは起き出してきます。そのたびに、お父さんはフランスをやさしくなだめるのですが…。子どもなら誰でも思い当たるに違いない、眠りに落ちる前のひとときを描いた絵本です。シリーズは「ジャムつきパンとフランス」などがあります（すべて好学社刊）。

## かいじゅうたちのいるところ

モーリス・センダック 作  
じんごうてるお 訳



富山房 1975年 1400円

おおかみの服を着て大暴れしたマックスは、罰として寝室に放り込まれてしまいます。すると、寝室に波が打ち寄せ始め、彼は長い航海に出ます。やがて、“かいじゅうたちのいるところ”にたどり着いたマックスは、怪獣の王さまになるのですが…。ぎよろりとした目の怪獣たちは、大人から見るとグロテスクですが、よく見るとユーモラスなところもあり、長い間、子どもたちの心をひきつけてやみません。

## かえるがみえる

まつおかきょうこ 作  
馬場のぼる 絵



こぐま社 1975年 950円

「かえるがみえる」にはじまり、「かえるがきえる」でおわる、語呂合わせのことばあそび絵本です。一見つながりのないことばたちが、馬場のぼるさんの絵によって、次のことばにつながっていきます。シンプルな線と黒と緑の2色のみで描かれたかえるたちの表情が魅力的です。言葉と絵がうまく溶け合い、ナンセンスかつユーモアたっぷりの1冊に仕上がっています。